



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2017.1

No.393

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



オーストラリアムシクイに会いに行く

海老原美夫（さいたま市）

海外の鳥見ツアーを案内する旅行社のパンフレットを見ていた家人が、「この日程ならなんとかなりそう」と、尾をピンとあげた小鳥の写真があるページを示した。オーストラリアムシクイだ。オーストラリアは21年前、北西部カカドゥに行ったことがあるだけ。では、久しぶりに行ってみるかと、10月27日(木)午後、羽田空港を飛び立ち、ホンコン経由で南西部、パースに向かった。

● オーストラリアムシクイ

日本のムシクイ科ムシクイ属には15種(日本鳥類目録第7版)いるが、比較的地味な鳥が多い。オーストラリアムシクイ類は、生態に似た点があるというが、姿形や色彩はかなり違う。なかなか華やかな鳥だ。古い分類ではヒタキ科、ウグイス科、チメドリ科に分散されていたが、オーストラリアムシクイ科にまとめられたとか。オーストラリアとニューギニアに20数種、西オーストラリアには7種ほどが生息している。日本のムシクイ属と近縁関係はなく、分類系統がかなり離れたミツスイ上科に属している。



様々な色調の青に身を飾ったムラサキオーストラリアムシクイ(Splendid Fairy-wren)。日本名に「紫」とあるが、その中でこれは、ほとんど青のタイプ。今回の旅で、最も印象的な鳥だった。



次は、アオムネオーストラリアムシクイ(Blue-bleasted Fairy-wren=左下)。頭と尾が薄い青、胸が濃い青。腹は白い。



最後はウスアオオーストラリアムシクイ(Red-winged Fairy-wren)。南西部に棲むオーストラリアムシクイでは、分布域が最も狭い。

ほかにムナグロオーストラリアムシクイが出たが、残念、撮影できなかった。今回の旅で観察できたのは4種類。

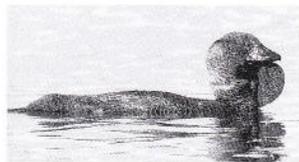
● 他の鳥、どこにでもいたのは



左からメジロキバネミツスイ、アカミミダレミツスイ、ヨコフリオウギビタキ、カササギフエガラス。この4種はどこにでもいた。ミツスイ類が多い。

● 水辺の鳥たち

有名なコクチヨウ、トキ、ペリカンなどは省いて、最も変なカモ、ニオイガモから。オスの下嘴から喉に、黒くて丸い袋がいかにも邪魔そうになっている。繁殖期に



オスが特有な匂いを出すことが名前の由来。



ズグロチドリ。オーストラリア南部とタスマニア島にのみ分布する少数派。眼の周囲が赤い。

ギンカモメ。嘴、囲眼部、足が赤い小型カモメ。オーストラリアとニューカレドニアに分布。オーストラリアからのサッカー中継を見ていた時、ピッチに多数降りていたのは、これ。



夏羽のカムリカイツブリが子育てをしていた。帰って来たら、彩湖に冬羽のカムリカイツブリがいた。当たり前だけど、何か…。

● 山野の鳥たち

オーストラリアと言えばインコとオウムが多いことがよく知られ



ているが、それを除いて、ニジハバト。漢字で書くと「虹羽鳩」。一見それほど華やかではないが、ひとつひとつ色を見ていくと、かなり複雑で美しい。オーストラリアとタスマニア島に分布している。



サンショクヒタキ。白と黒を基調として、オスは胸の濃紅色が鮮やか。その色合いが良い。オーストラリア南西部・南東部、タスマ

ニア島に分布。

黒、白、黄色に彩られた小鳥、キボシホウセキドリ。ホウセキドリ属の羽色はいろいろ変化に富み、多様。



「今、割と早く書けるとしたら、こんな話かな」「では、それを」ということで思いがけなく書き始めた拙稿が、なんとか結末らしきものに辿り着いた所で、遅ればせながら、**新年のご挨拶**をさせていただきます。

会の雑務に追われがちな私も、皆様のご協力を頂き、旅行を楽しむことがあります。楽しむ時は楽しみながら、会の活動優先で、役目を果たしています。お互いやりくりしながら、何もかもみんなで力を合わせ、会の運営を続けている訳です。

昨年も残念ながら会員の減少傾向は解消しませんが、前年度事業報告によれば、探鳥会合計参加者数、1回平均参加者数、会員以外の参加者数、みな増加しています。『しらこぼと』も年12回発行し、会員の皆様のお手元に届けることができました。未来を信じて、力を合わせ、今年も前に進みましょう。

日本野鳥の会埼玉代表 海老原美夫

繁殖時期。ペア、または親子で静かに生活しているように見えた。



乾いたユーカリ林の中を走っていたら、運転手兼ガイド氏が突然車を止めた。道路脇にいたのは大きなトカゲ。口の中の青が不気味で印象的。



右にインド洋、左に南氷洋が広がるルーイン岬の灯台下でスコープを覗いていた同行者が、「クジラがいる！」と言う。あらま、本当だ。手持ちレンズで地上から、ザトウクジラのブリーチングを撮影できるとは思わなかった。



● 動物たち

オーストラリアと言えばカンガルー。21年前は6月だったので、秋。カンガルーたちは群れで生活している印象が強かった。今回は

「やはり世界は広い」をまた体感。旅を通じて身近な鳥たちに対する気持ちがリフレッシュされ、長い付き合いのいつものフィールドを楽しむ日々が続いている。

野鳥記録委員会の最新情報

日本野鳥の会埼玉 野鳥記録委員会

●キマユホオジロ

英名 Yellow-browed Bunting

学名 *Emberiza chrysophrys*

分類 スズメ目ホオジロ科ホオジロ属



岡室靖彦さん（未入会の方）より、2016年10月13日に所沢市内で撮影した上掲写真ほか1枚が寄せられました。当委員会で写真を検討した結果、キマユホオジロであることを確認し、337番目の野鳥として県内野鳥リストに追加することにしました。10月初旬から中旬にかけて観察されたようです。

『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版(2015年)に拠れば、本種は「数少ない旅鳥として主に西日本に渡来し…」ということですが、『日本鳥類目録改訂第7版』(2012年)に拠れば、本県に近いところでは、茨城県での記録があります。

●モリムシクイ

英名 Wood Warbler

学名 *Phylloscopus sibilatrix*

分類 スズメ目ムシクイ科ムシクイ属



藤掛保司当会幹事より、2016年10月30日に幸手市内で撮影した上掲写真が寄せられました。当委員会で写真を検討した結果、太く黄色い眉斑、黄色い喉と白い胸・腹のはっきりした色の違いなどからモリムシクイと同定し、338番目の野鳥として県内野鳥リストに追加することにしました。

本種はユーラシア大陸西部に繁殖分布し、熱帯アフリカで越冬する野鳥で、『日本鳥類目録』改訂第7版(2012年)などに拠れば、国内では1991年10月北海道苫小牧市、2006年10月山形県飛鳥、1984年10月等石川県舩倉島で記録されているだけの迷鳥です。

神奈川支部の研究年報「BINOS」第23集発売

会員の投稿を中心に編集した研究と活動の報告誌です。

【論文】大坂英樹：ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis* の鳴き出し時間のバラツキ比較（大磯、仙台、密陽）と鳴き出し時刻の照度推定。安井啓子・立脇隆文：神奈川県西部における過去20年の救護記録からみるオオタカの生息状況の推移。和田のどか・倉本宣：関東平野に越冬する猛禽類は水辺とその周囲環境をどの程度利用しているのか。大浦晴壽：確認率を用いた横浜自然観察の森における移入種ガビチョウ *Garrulax canorus* の定着経過と囀り活動の季節変動の検証。今井智康：森の里C地区調整池（厚木市）におけるコガモ *Anas crecca* の日周および各月の個体数変動。こまたん・畑中優美・吉村理子：アオバトの鳴き声の構造と個体ごとの鳴き方の違いについての解析。【観察記録】【調査記録】【講演記録】など。

【価格】1,200円（送料350円）【発行部数】320部

ご注文方法、問い合わせ先等は、同支部のホームページをご覧ください。

カワウ対策の今後

埼玉県カワウ対策協議会委員(日本野鳥の会埼玉) 小荷田行男

関東におけるカワウ 21 年の動向(加藤 2016)

カワウ個体数(12月調査)は、1994年からピークであった2009年までに約2.17倍の約2万羽、増数は2009年までに11.5倍の約90カ所に増えた。その後はいずれも頭打ちとなり、2015年12月で、個体数は約18,000羽、増数は約70カ所となっている。

カワウの分布は、まず荒川や多摩川を下流から上流へ、その後それらの河川分水嶺を越える形で、相模川や利根川の水系の下流や上流へ進出、湖沼へまた河口部から海岸沿いに広がっていき、2004年ごろ、一部の地域を除いた関東全域に広がった。

国の対応(環境省、農林水産省 2014)

環境省と農林水産省は2014年4月「カワウ被害対策強化の考え方」を発表。「被害地から半径約15km以内の増等を中心として、増等の管理やそれらを利用するカワウの個体数を管理して、被害を与えるカワウの個体数を10年後までに半減させることを目指す。」と、「目標を設定」した。ここで言う「被害」とは、「アユなどの有用魚種の食害の防除」などを指す。

「効果的な対策の考え方」として

*モニタリングの推進

*増等における対策

*有用魚種の食害の防除をあげている。

埼玉県におけるカワウ対策

山梨・静岡・新潟を含む関東11都県と環境省、水産庁、国土交通省で構成される関東カワウ広域協議会の「関東カワウ広域管理指針」に基づき、埼玉県漁業協同組合連合会、(公財)日本釣振興会埼玉県支部、(公財)埼玉県生態系保護協会、日本野鳥の会埼玉、国交省関東地方整備局国営武蔵丘陵森林公園出張所、県農林部生産振興課、県農林部水産研究所、県県土整備部水辺再生課、県環境部みどり自然課の各ステークホルダー(利害関係者)から構成される埼玉県カワウ対策協議会が、2007年11月「埼玉県カワウ対策計画」を策定した。

環境省、農林水産省(2014)の策定により、「埼玉県カワウ対策計画」改訂を、2016年8月に行った。その基本的な考え方は、

(1) カワウは2007年5月に狩猟鳥に指定済であり、生息数管理が必要である。

(2) 県内に生息するカワウの絶滅につながらないよう慎重に対策を実施すること。

(3) コロニーは森林公園1カ所に限定し、新たに発生したコロニーは早期に対応し定着を防ぐ。

(4) 継続したモニタリングを実施する。

(5) 継続してきた対策(ゾーニング、巢落し、有害鳥獣捕獲など)の質・量を向上させ、個体数の半減目標を達成するよう努める。

これがカワウ対策の今後の方向を示すものである。

鳥獣被害対策の実施と法令

カワウを含めた鳥獣被害対策の実施は(表)に示した様に定められており、「埼玉県カワウ対策計画」は、実施者に対する方向性を示すに留まり、それ以上の法的拘束力はない。

(表) 鳥獣被害対策の実施と法令

項目	内容	武蔵丘陵森林公園の場合
実施者	土地所有者(民有地)	
	土地管理者(公有地)	国交省
コスト負担	同上	同上
実施方法	「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」「鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止のための特別措置に関する法律」などの法令に従うこと。	

おわりに

2013年3月11日の東日本大震災以降、相次ぎ地震や洪水などの災害が発生、国民の関心は、「環境(生物多様性)」から「広くヒトに害を成すものへの対策(安全・安心)」へと移動した。

本県における鳥獣被害は、特定鳥獣管理計画の対象種であるニホンジカ、イノシシがまずあり、カワウはそれらに次ぐ対象種であるとされている。

文献

埼玉県カワウ対策協議会 2007 埼玉県カワウ対策計画 埼玉県

環境省、農林水産省 2014 カワウ被害対策強化の考え方

加藤ななえ 2016 関東カワウモニタリング21年の軌跡 バードリサーチ・ニュースレター 2016年2月下旬 バードリサーチ

埼玉県カワウ対策協議会 2016 埼玉県カワウ対策計画 埼玉県



野鳥情報

さいたま市中央区八王子5丁目 8月18日朝、かやのき団地8号棟表庭でオナガ16羽+が、騒然と樹上や地上で採餌したり、排水溝に降りて水浴びしたり。幼鳥たちは親鳥を追いかけて甘える仕草。一行は夕方まで近所に滞在。9月10日朝、同団地8号棟前庭でシジュウカラとエナガの混群、総勢10羽土。木から木へ速やかに移動し、飛び去る（大塚純子）。

川越市南古谷 ◇8月19日、ムナグロ100羽土。8月25日、ムナグロ71羽、セイタカシギ1羽、アオアシシギ1羽。他にカワウ1羽が電線にとまる。セッカの声。ダイサギ、チュウサギ。8月31日、コチドリ5羽、ダイサギ1羽、チュウサギ3羽、コサギ1羽。9月1日、コチドリ3羽、トウネン1羽、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、セッカ（今村富士子）。

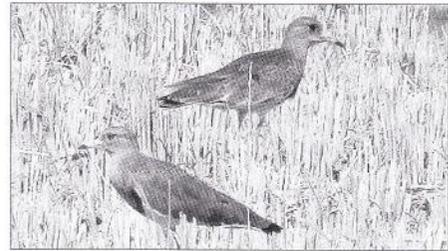
川越市伊佐沼 ◇8月23日、噂を耳にして、夕刻行ってみる。北端の岸边や遊歩道に60～70人。「飛んだ!!」の声に双眼鏡で探してレンカク夏羽確認。手前のハスの葉がじゃまだが、羽繕いしたり、くつろいでいる様子が観察できた。他にセイタカシギ9羽、イソシギ、カルガモ、カイツブリ、サギ類など（鈴木紀雄）。

川越市菅間 ◇8月27日、通勤中の車窓からの観察。台風の影響か、田圃の空にショウドウツバメが飛んでいるのが見られた。バードウォッチングしていると季節の変化を実感する（大畑祐二）。

さいたま市岩槻区本丸 ◇我が家の上空を西方から東方の餌場に向かうサギ（大半がダイサギ）の数を調べた。時間：午前5時～5時30分。天候により出発の時間や数が変わるが、その日の条件により餌場を変えているのだろうか。8月24日（曇）87羽、26日（晴）179羽、27日（曇）142羽、28日（曇/雨）124羽、29日（小雨）146羽、30日（雨）104羽、31日（晴）175羽（内田克二）。

春日部市大沼1丁目 ◇8月31日早朝5時40分頃、地方合同庁舎付近で「クーポッポウ」と鳴くシラコバト1羽を認めた。その後、大沼運動公園正門近くの電線に移動し、同様に鳴いていた。時々、この付近を見て回っているが、姿を見るの久しぶりだ。大沼1丁目を中心に生活しているようで、この1羽しかいない（石川敏男）。

杉戸町才羽 ◇8月31日午後1時50分～2時10分、埼玉葛城農道沿いの田圃では、あちこちで稲刈りが進行中。その中の1枚の刈り田にケリが集まって採餌していた（下写真）。数えてみると全部で16羽いた（石川敏男）。



蓮田市馬込 ◇9月1日午前8時頃、ツミが「ケーケー・・・」と鳴くので見ると、ツバメを追いかけていた。同日、自宅庭でエナガとオナガとシラコバトがタラの実を食べていた（本多己秀・久文字）。

さいたま市西区の鴨川 ◇9月1日夕方、根切橋付近でカルガモの群れの中にマガモ♀エクリプス1羽。この川で夏を過ごした個体と思われる。植田谷堰付近でコムドリ9羽。「キュルキュル」と鳴きながら、川岸のクルミの木に群がる。虫を食べに来たらしい。9月11日、植田谷堰近くの桜の梢でモズが高鳴き。大雨後の増水中は、川から姿を消していたカワセミが水の引いた今、常連に。ダイサギ、コサギ、ゴイサギ幼鳥など（大塚純子）。

表紙の写真

フクロウ目フクロウ科トラフズク属コミミズク 昨年1月、雪の降った翌日、幸運にも道路脇にいるコミミズクに会いました。

森田文三郎（本庄市）



行事案内



ツグミ (編集部)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：中学生以下無料、会員100円、一般200円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。間際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意ください。

さいたま市・さぎ山記念公園探鳥会

期日：1月4日(水)

集合：午前10時10分、さぎ山記念公園入口。

交通：大宮駅東口⑦番バス乗り場9:28発「浦和学院高校」行き、または東浦和駅③番バス乗り場9:37発「さいたま東営業所」行きで、「さぎ山記念公園」下車。駐車場はありますが、もちろん飲酒運転厳禁です。

担当：海老原、浅見(徹)、宇野澤、楠見、工藤、小林(み)、新部

見どころ：新年最初の探鳥会。昼ごろからはいつも通りかる〜く野外懇親会。酒類、食べ物ご持参歓迎。数物も各自ご用意を。

戸田市・彩湖探鳥会

期日：1月7日(土)

集合：午前9時10分、彩湖道満グリーンパーク中央駐車場。

交通：JR埼京線 武蔵浦和駅東口から、②番バス乗り場8:27発下笹目行きで、「彩湖道満グリーンパーク入口」下車。直前の交差点まで戻り左折して土手を越える。

担当：小林(み)、石塚(敬)、石塚(真)、今村、大井、新部、野口(修)

見どころ：新年を迎えて心機一転。カモやカンムリカイツブリも繁殖羽に変わると気持ちは変わるのかな？

千葉県・ふなばし三番瀬海浜公園探鳥会

期日：1月7日(土)

集合：午前9時10分、ふなばし三番瀬海浜公園バス停留所付近。注：JR船橋駅での受付はしません。

交通：JR武蔵野線 南浦和7:25→西船橋にて総武線8:13に乗換え、船橋8:16着。京成バス8:30発船橋海浜公園行きに乗車し、終点下車。京成バス乗り場は京成船橋駅付近にあります。リーダーが案内します。

担当：菱沼(一)、佐久間、佐野、杉本、菱沼(洋)、渡邊

見どころ：ミュビシギ、ミヤコドリは埼玉では見ることができません。この機会に！寒さ対策は十分に。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：1月8日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道 大麻生駅前。

交通：秩父鉄道 熊谷9:09発、または寄居8:50発に乗車。

担当：千島、新井、鶴飼、倉崎、田島、飛田、中川、村上、茂木

見どころ：野鳥の森まで歩き、ジョウビタキ、カシラダカ、アオジ、ベニマシコ、シロハラを観察。猛禽も飛ぶでしょう。

松伏町・まつぶし緑の丘公園探鳥会

期日：1月8日(日)

集合：午前9時、松伏町まつぶし緑の丘公園管理棟前。

交通：東武伊勢崎線 せんげん台駅東口、茨急バス③番乗り場から松伏町役場行き8:47発で「まつぶし緑の丘公園」下車。

担当：橋口、植平、榎本(建)、佐藤、佐野、進士、鈴木(誠)、田邊、野村(修)、野村(弘)、森下、吉岡

見どころ：公園はほぼ完成となり丘が開放されましたので、今までのコースを若干変更します。丘では何が現れるか楽しみです。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：1月9日(月・祝)
集合：午前9時20分、森林公園南口前広場。
交通：東武東上線 森林公園駅北口から熊谷駅南口行きバス9:00発で「滑川中学校」下車。ひとつ手前の「森林公園南口入口」は通過してください。下車後、歩道橋を渡り戻る。
費用：参加費以外に入園料410円(子供80円)、65歳以上210円(要年齢を確認できるもの)。
担当：鈴木(秀)、大坂、大畑、佐久間、中村(豊)、藤掛、藤澤、松下
見どころ：南口から山田大沼まで歩きます。落ち葉と樹上を行き交う小鳥類、沼に浮かぶカモ類を探します。猛禽とも出会いたい。

さいたま市・民家園周辺臨時探鳥会

期日：1月9日(月・祝)
集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。
交通：JR浦和駅東口①番バス乗り場から東川口駅北口行き8:37発で「念仏橋」下車。
担当：伊藤、大井、須崎、高崎、手塚、野口(修)、藤田、若林
見どころ：調節池に集う多くの種類の水鳥たち。2015年12月は、カモ類だけでも11種、カイツブリ3種にハクチョウたちも。
ご注意：風を遮る場所がありません。防寒対策は万全に。途中トイレがありません。強風等天候によってはコースを変更します。
お知らせ：「ビギナー探鳥会」を同時開催。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：1月9日(月・祝)
集合：午前9時15分、アスレチック広場前・第一駐車場。
交通：東武春日部駅西口、朝日バス③番乗り場から春日部エミナス行き8:41発で、「共栄大学入口」下車。西へ徒歩約7分。
担当：石川、菊川、佐藤、佐野、進士、野村(修)、野村(弘)、橋口、吉岡、吉安
見どころ：雑木林、屋敷林、田んぼ、ハス池、草地を歩きます。今冬はどんな鳥が来てるかしらん。(途中、トイレ休憩有り)
※帰路バス時刻：13:07、14:20(11月現在)。

深谷市・仙元山公園探鳥会

期日：1月14日(土)
集合：午前9時、JR高崎線深谷駅南口ロータ

リー。

担当：新井、鶴飼、小淵、倉崎、田島
見どころ：仙元山には毎年トラツグミが入ります。姿を見せてくれるかどうか、問題なのですが……。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：1月15日(日)
集合：午前8時15分、京浜東北線 北浦和駅東口、集合後路線バスで現地へ(ご注意：案内人は8時過ぎに北浦和駅東口到着予定です)。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。
後援：さいたま市立浦和博物館
担当：青木、浅見(健)、浅見(徹)、楠見、小菅、小林(み)、須崎、新部、島山、増田
見どころ：今年はとり年、皆さんと一緒に鳥達を探したいと思います。お誘い合わせの上、是非お越しください。お待ちしております。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：1月15日(日)
集合：午前8時10分、東武日光線 柳生駅前。または午前8時30分、中央エントランス駐車場。
交通：東武日光線 新越谷7:21発、南栗橋7:52で新栃木行きに乗換え柳生8:06着。またはJR宇都宮線 大宮7:13→久喜乗り換え栗橋7:38着で7:57発の東武日光線に乗り換え。
解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーン。
担当：佐野、植平、佐藤、進士、田邊、玉井、野口(修)、山田
見どころ：谷中湖ではミコアイサやカワアイサなどに期待です。そして猛禽は5種以上みられるかも。寒さ対策は万全に！

久喜市・久喜菖蒲公園探鳥会

期日：1月19日(木) 平日
集合：午前9時15分、久喜菖蒲公園駐車場。
交通：JR宇都宮線 白岡駅西口から、朝日バス 菖蒲仲橋行き8:36発で、「除堀(よけぼり)」下車、徒歩約15分。バス停から案内します。
担当：長嶋、石川、大坂、植平、菊川、佐藤、竹山、中川、吉原(俊)、渡邊
見どころ：昭和沼の水辺の鳥と園内の林の鳥を探します。今年もあのカモは来ているだろうか？ トイレは4カ所あります。

埼玉 Young 探鳥会
加須市・渡良瀬遊水地
共催：日本野鳥の会栃木

期日：1月21日（土）

集合：【電車の方】13時、東武日光線 柳生駅前。集合後、中央エントランスへ徒歩移動。

【お車の方】13時15分、渡良瀬遊水地中央エントランス駐車場

解散：17時ころ渡良瀬遊水地内。終了後、参加者の交通手段に応じて、東武日光線 板倉東洋大前駅、または中央エントランス駐車場まで徒歩移動。

担当：廣田、石塚(敬)、石塚(真)、小林(み)、佐野、島崎、高崎、菱沼(一)

見どころ：昼間は谷中湖でカモ類を、夕方はヨシ原でチュウヒの罫入りを観察します。

日本野鳥の会栃木ユース観察会との共催。

ご注意：集合場所と解散場所が異なりますのでご注意ください。解散時間には足元が暗いと思われると思います。懐中電灯をご持参ください。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：1月21日（土）午後3時～4時ころ

会場：会事務局108号室

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：1月22日（日）

集合：午前9時、西武新宿線 狭山市駅西口。

交通：西武新宿線 本川越8:42発、所沢8:39発に乗車。

解散：正午ころ、稲荷山公園。

担当：長谷部、石光、久保田、島崎、鈴木(秀)、高草木、中村(祐)、藤掛、星、水谷、山口、山本

見どころ：久しぶりにセキレイの仲間5種確認を目標にしましょう。タヒバリの出現率が一番低いので、こいつを見つければ可能。

長瀨町・長瀨探鳥会

期日：1月22日（日）

集合：午前9時40分、秩父鉄道 長瀨駅前。

交通：秩父鉄道 御花畑8:59発、または寄居9:21発に乗車。

担当：井上、鶉飼、佐久間、堀口、松下

見どころ：冬本番です、どんな鳥たちが私たちを迎えてくれるのでしょうか？ 長瀨駅から荒川下流・水管橋へ歩く予定です、防寒対策と靴は履き慣れた物を！

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：1月22日（日）

集合：午前9時、環境学習館前。

交通：JR宇都宮線蓮田駅東口から朝日バス 国立東埼玉病院行き8:50発で「新井団地」下車。バス停から案内します。

担当：玉井、青木、内田、榎本(建)、小林(み)、田中、長嶋、長野、菱沼(一)、菱沼(洋)、星野、吉安

見どころ：黒浜沼周辺は、身近な鳥ばかりですが意外に多様な鳥が見られます。当地のベストの季節に鳥を楽しみましょう。

ご注意：車で来られる方は、出発地点の環境学習館ではなく北側にある“緑のトラスト保全第11号地 黒浜沼駐車場”を利用して下さい（環境学習館まで徒歩1分）。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：1月24日（火）平日

集合：午前9時20分、森林公園南入口前。

交通：東武東上線 森林公園駅北口から熊谷駅南口行きバス9:00発で「滑川中学校」下車。

ひとつ手前の「森林公園南口入口」は通過してください。下車後、歩道橋を渡り戻る。

費用：参加費以外に入園料410円（子供80円）、65歳以上210円（要年齢を確認できるもの）。

担当：中村(豊)、大坂、大畑、岡安、佐久間、藤掛、松下

見どころ：平日の森林公園を散策します。静かな園内を歩けばルリビタキ、キクイタダキ、カラの混群など次々に出てくれるはず。

羽生市・羽生水郷公園探鳥会

期日：1月26日（木）平日

集合：午前9時、羽生水郷公園北駐車場。

交通：羽生市福祉バス 手子林・三田ヶ谷ルート（ムジナもん号）で東武伊勢崎線羽生駅東口8:05発、南羽生駅8:22発、「キャッセ 羽生・水郷公園」下車。

共催：羽生水郷公園管理事務所

担当：相原(修)、相原(友)、新井、植平、竹山、飛田、中川、茂木

見どころ：常連のヨシガモやオオジュリン、ベニマシコなどの小鳥たち、上空を舞う猛禽を期待しましょう。

ご注意：帰りのバスの便は14:51発です。



行事報告

7月10日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 26名 天気: 晴

キジバト カワウ アオサギ トビ ツミ オオタカ コゲラ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ホオジロ (19種) (番外: ドバト、ガビチョウ) 「熱中症」を心配しながら土手上に進んだ。鳥の影が薄い。ホオジロとウグイスの鳴き声と、ツバメ、カラスが暑くなる前に飛んでいたくらいであった。途中で上空にトビ、ツミ、オオタカの猛禽類、林の葉陰に時折、小鳥が動いている。とにかく暑くなる前に短時間での観察会を心がけて無事終了した。(茂木幸蔵)

7月16日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 9名

相原修一、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、志村佐治、藤掛保司、松村禎夫

7月17日(日) さいたま市 三室地区

参加: 60名 天気: 曇一時雨

コジュケイ キジ カルガモ キジバト カワウ ダイサギ ツミ カワセミ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ メジロ ムクドリ コムクドリ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ホオジロ (21種) (番外: ドバト) 梅雨空の中のスタート。雨は降っていないが今にも降りそうな雰囲気。その分太陽も出てないので予定コースを変更して開始。芝川ではカワセミが上流下流を何度も往復。ムクドリの中にコムクドリもいる。ムクドリの若とコムクドリの識別にたっぷり時間を割く。途中雨も降ってきそうなので見沼代用水沿いに退避。終わってみればなんとか21種。8月、9月と厳しい夏が続くが参加してくれる人がいる限り頑張ろうと思いを新たにしたい。ツミが声のみなのが残念であった。(青木正俊)

7月24日(日) 狭山市 入間川

参加: 45名 天気: 曇

キジ カルガモ カイツブリ キジバト ササゴイ ダイサギ ヒメアマツバメ コチドリ トビ ツミ カワセミ コゲラ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ メジロ オオヨシキリ ムクドリ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ (28種) (番外: ドバト) 今年はササゴイがとても多く、コース内で初めて繁殖を確認した。対岸にはササゴイ目当てのカメラマンが何十人も並んで、異様な光景。そんなに珍しい鳥だったっけ? それとも、そうなりつつあるのか。(長谷部謙二)

8月7日(日) 北本市 石戸宿

参加: 34名 天気: 晴

コジュケイ カルガモ カイツブリ キジバト アオサギ バン トビ ノスリ カワセミ コゲラ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ウグイス メジロ オオヨシキリ ホオジロ (18種) (番外: ガビチョウ) 探鳥会開始の挨拶中に「ワシタカ!」の声。上空高く真っ青な空の中を帆翔するノスリ。ゆっくりと視野の外に消え去るまで見続けた。コース途中にマルタンヤンマの情報も。しかし見られず。その代わりにヤブヤンマが現れた。ムクドリが確認出来なかっただけでなく、スズメ、ヒヨドリも確認出来なかったのは、暑さでボーッとしていたから? 皆様暑い中ご苦労様でした。(吉原俊雄)

8月13日(土) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加: 36名 天気: 晴

カルガモ カイツブリ キジバト カワウ ゴイサギ アオサギ ダイサギ チュウサギ コサギ ダイゼン コチドリ メダイチドリ セイタカシギ アオアシシギ キアシシギ ソリハシシギ イソシギ キョウジョシギ オバシギ トウネン キリアイ ウミネコ コゲラ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ エナガ メジロ セッカ ムクドリ スズメ ハクセキレイ (35種) (番外: ドバト) 干潟を北回りにしたら南側にオバシギの幼鳥が出た。でもキリアイは良く見られた。途中でアオサの腐敗臭の社会問題なども勉強。(杉本秀樹)

8月14日(日) 熊谷市 大麻生

参加：23名 天気：曇

キジバト カワウ アオサギ ダイサギ ノスリ
コゲラ ハシボソガラス ハシブトガラス シジ
ュウカラ ショウドウトツバメ ツバメ エナガ
メジロ ムクドリ スズメ ハクセキレイ セグ
ロセキレイ カワラヒワ ホオジロ (19種) (番
外：ドバト、ガビチョウ) ここ数日の炎暑がお
さまり、思いがけない涼しい日となる。鳥を探
す余裕もあって、のんびり歩いて19種。8月の探鳥
会としては「まずまず」と言ったところ。ショウ
ドウトツバメの乱舞が秋の兆しを感じさせてくれた。

(榎本秀和)

8月20日(土) 千葉県 ふなばし三番瀬海浜公園

参加：16名 天気：雨

カワウ ダイサギ ダイゼン シロチドリ メダ
イチドリ キアシシギ ソリハシシギ キョウジ
ョシギ ミコビシギ ミヤコドリ ウミネコ コ
アジサシ アジサン オナガ ハシボソガラス
ツバメ ムクドリ スズメ ハクセキレイ (19
種) 開始時はほとんど雨が降っておらず、次第
に回復する様子だったので開催。予想に反して、
雨足が強くなり30分程度で切り上げた。こんな短
時間で切り上げたのは初めてだ。一方、シギ・チ
たちは、雨のなか採餌に夢中。解散後、予報どお
り、雨も上がり晴れ間もちらほら、見足りなかつ
た居残り組は結構楽しめた。

(菱沼一充)

8月20日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：12名

宇野澤晃 海老原教子 海老原美夫 大坂幸男
小林みどり 佐久間博文 志村佐治 藤掛保司
松村禎夫 三ッ矢正安 吉原早苗 吉原俊雄

8月21日(日) さいたま市 三室地区

参加：32名 天気：晴

カルガモ キジバト ハシボソガラス ハシブト
ガラス シジユウカラ ツバメ スズメ カワラ
ヒワ ホオジロ (9種) (番外：ドバト) 下見で
いい鳥に巡り逢うと本番では駄目だというジンス
クが私にはあるが、今回はまさにその通り。下見
ではオオタカ、ツミ、サシバ等と出会えたが、本
日は全く駄目。風は多少吹いていたが猛烈な暑さ。
種類は三室探鳥会最低記録?の9種となってしまう

ったが、参加者の皆様は苦情の一つも言わずお付
き合いくださった。申し訳なさでいっぱい。秋
以降に期待を。

(青木正俊)

8月28日(日) 千葉県 谷津干潟 Young

参加：66名 天気：曇

カルガモ カイツブリ キジバト カワウ ダイ
サギ コサギ アオサギ コチドリ メダイチド
リ ダイゼン ハマシギ アオアシシギ キアシ
シギ セイタカシギ ウミネコ オナガ ハシボ
ソガラス ハシブトガラス シジユウカラ ヒバ
リ ツバメ ヒヨドリ エナガ メジロ セッカ
ムクドリ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ
(29種) (番外：ドバト) 雨がつきもの?の“埼
玉Young探”。数日前に過ぎ去った台風が引き返す
という状況で当日を迎えた。怪しい空色も雨粒さ
え落ちてこなければ問題なしとスタート。まず目
に入ったのはサギ類の多さ…。さてお目当てのシ
ギ・チはどこ? 次第にダイゼン、アオアシシギ、
メダイチドリ等々がその視界に入ってきたが、ど
うもその数が少ないようだ。それでも、終始活気
に満ち溢れ、恒例皆さんで昼食後の鳥合せ。そし
てこれも恒例、終了後の“お茶会”では話し声、
笑い声がいつまでも続いた。

(石塚敬二郎)

9月4日(日) 平成28年度リーダー研修会

参加：40名

埼玉県自然学習センターで開催。午前中は、リー
ダーの心構え等について説明した後、近藤、廣田
の新幹事がメインリーダーを務め、2班に分かれ
て模擬探鳥会を実践形式で行った。その後、ベテ
ランリーダーから数多くの貴重なアドバイスを頂
いた。午後は、山口幹事からの探鳥会参加者人数
や会員数についてデータによる分析発表、参加者
全員の自己紹介、会の状況と各部の報告が行われ
た。最後に海老原代表から講評と新リーダーへの
腕章貸与が行われ、無事終了。夕方からは希望者
で、北本駅前中華料理店で懇親会を行い、大い
に盛り上がった。新リーダーは、大畑祐二(熊谷
市)、柏瀬政己(足利市)、黒田清恵(横浜市)、島
崎敦(入間市)、高崎康晃(さいたま市)の5名
(敬称略)。うち2名は20代の若手、地域的なバラ
ンスの良さなど多彩な顔触れ。今後の活躍に期待
したい。探鳥会で彼らの姿を見かけたら激励の言
葉をかけて頂ければ幸いである。

(長野誠治)



● **全国総会に出席**

平成28年度日本野鳥の会連携団体全国総会が11月12日(土)～13日(日)千葉市内で開催され、当会代表海老原美夫を含め52支部から60人、会長評議員理事等12人、事務局30人が出席しました。【**記念講演**】「野鳥の鳴き声とその魅力」(松田道生氏)等2件。【**事務局からの報告**】メガソーラーへの今後の対策、全国鳥類繁殖分布調査の進捗状況、オオジシギ保護調査プロジェクト等6件。【**ブロックからの報告**】中部、東北、中国四国各ブロック会議等3件。【**連携団体からの報告・提案**】10件。夜の懇親会を挟んで、熱心な話し合いが続きました。

● **WING閉館**

全国総会で報告された事項のひとつです。東京都日野市にある(公財)日本野鳥の会の「鳥と緑の日野センター」(旧名称:鳥と緑の国際センター、愛称:WING)は、日野市から敷地約2,000坪の無償貸与を受け、多くの会員等の寄付をもとに、1997年3月に第一期建物が竣工。国際会議などの国際協力事業や調査研究、保護分野等様々な事業を行ってきました。約20年を経過して老朽化が急速に進み、修繕・維持に多額の費用がかかることから解体撤去、更地にして返還することを、理事会で決定したとのこと。

当時ご寄付いただいた皆様には、感謝を伝える「ご報告」が送られます。

● **会員の普及活動**

11月16日(水)葛西臨海公園で、彩の国シニア自然大学校「野鳥観察コース」今年度第1回講座が実施され、小林みどり、石塚敬二郎、近藤龍哉、菱沼洋子が指導しました。

● **会員数は**

12月1日現在1,722人。

活動と予定

● **11月の活動**

- 11月3日(木) さぎ山記念公園で行われた「私の好きな見沼たんぼ」写真コンクール表彰式に出席(小林みどり)。
- 11月7日(月) 川越市内で開催された鳥獣保護管理員研修会に出席(小林みどり、小荷田行男、橋口長和)。
- 11月12日(土) 『しらこぼと』12月号校正(海老原教子、小林みどり、志村佑治、長嶋宏之、藤掛保司)。13(日) 同(海老原美夫)。
- 11月20日(日) 役員会(司会:吉原俊雄、各部の報告・その他)。
- 11月21日(月) 『野鳥』誌を購読しない会員向け、『しらこぼと』12月号を郵便局から発送(事務局)。

● **1月の予定**

- 1月7日(土) 編集部会。普及部会。
- 1月14日(土) 2月号校正(午後4時から)。
- 1月15日(日) 役員会(午後4時から)。
- 1月21日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

編集後記

先般、香港で友人達と食事をした。終わって店前のバス停からホテルへ戻ろうとしたら、バスの路線番号を訊かれた。スマホを見ながら、次のバスはここまで10分くらいの所にいるから、まだ店にいていいという。バスはGPSを積んでいて路線毎に全てのバスの現在地がわかるんだそう。進化！(山口)

東京オリンピック・パラリンピックのポート・カヌー競技会場は、彩湖ではない場所に決まった。最初から可能性は低いと思っていたが、万一の場合のことは常に考え、情報を収集していた。彩湖の鳥たちを思い、少しほっとしている。(海)

しらこぼと 2017年1月号(第393号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 海老原美夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉(〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 郵便振替 00190-3-121130 http://www.wbsj-saitama.org 事務局 office@wbsj-saitama.org
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 編集部への野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社